

吃音ってなに？

ことばの架け橋かがわ 古市泰彦

ことばの架け橋かがわ

吃音の啓発や当事者の交流などを目的に2025年9月14日に設立

色々な地域から集まる吃音当事者の有志が

香川の色々な地域から集まる吃音当事者の有志が

香川の吃音に関わる人たちの架け橋になってほしいという

おもいを込めて当事者の大学生が命名

私の略歴

大学を卒業後、旧長尾町の職員に

ケーブルテレビの試験放送から番組制作を担当

現在は、さぬき市のケーブルテレビで番組制作を担当

大学時代は、地元のテレビ局でニュースや番組制作のアルバイト

吃音（きつおん）

話すときにことばがつまるなどの症状が出る発話障害

言葉を思うように滑らかに話せない発話障害など

（ニュースや新聞）

原因不明・治療法不明

吃音の症状

連発 あ・あ・あしたなど音の繰り返し

伸発 あーした

難発 ……あした なかなか発声できない（数分発声できないことも）

症状には個人差がかなりある

こどもの頃に発症するケースが多いが年齢に関係なく成人で発症するケースもある

症状は日や時間により波がある

当事者は単語や文などを言い換えている

→吃音がわかりにくいが本人は思ったとおりに発声できていない

（例）苦しいと言えない

→同じような意味の単語でその瞬間に言えるものに

しんどい、気分がわるい、えらいなど

セルフうどんの店での注文

昼は長い列で注文は口頭で細かくすばやくしなければ・・・

うどんの量 トッピング 熱い冷たいなど

→ほしいメニューが言えず違うメニューになることも

「きつねうどん」の「き」言えずその瞬間言える「ぎるうどん」にかわる

吃音の認知度は低い

間違った知識でよく言われること

緊張したらだれでも話せなくなる

練習不足、努力不足

理解してもらうには、間違った知識を消してもらってからスタート

★現実的にはここが難関

こどもが相談するかどうか悩み勇気を出して先生や保護者に話しても

否定される

→聞いてもらえないのであきらめる

その結果

人と話すことを避ける、不登校、引きこもり、精神疾患などの原因に

私の吃音

小学校3年生の時

本読みが難しい

学級委員に選ばれる・・・起立など号令がかけられない

司会進行ができない→体調が悪くなり不登校に

中学1年生の時

学級委員に選ばれる・・・全校集会などで話す機会も多く辞退する

家族や先生に相談したがまったく理解されなかった→絶望・・・

大学時代から就職した20代にかけて

香川県をはじめ近隣の医療機関などを受診するが全滅

正直にわからないと丁寧に説明してくれた医師が一番よかった

ひどいことを言われたこともある

インターネットの普及により20代後半に

セルフヘルプグループの岡山言友会を知り参加

最初訪れた時には会場近くまで行ったが勇気がなくて岡山城を観光して帰ってきた

番組制作の仕事

小学生の頃から放送に興味があった（小学校の卒業文集にも書いていた）

吃音で話すことは苦手であったが嫌いではなかった

正確な情報が得られなかったので就職するまでには治したいと思っていた

テレビ局のアルバイトは多くの人と出会え、カメラマンという映像で表現できる

仕事はシビアであったが楽しかった

吃音のカミングアウト

吃音当事者にとってカミングアウトはハードルが高い

私のカミングアウトは特異なケース

5年ほど前に吃音当事者の集まり

当時香川県内で取材受ける人がいなく

NHK、民放、新聞が私のカミングアウト

その結果

一般の方と吃音についていろいろ話せることになった

→吃音はほとんど知られていない

誤解されていることがよくわかった

出前講座など吃音を知ってもらう取り組み

まずは吃音を知ってもらえれば→出前講座などを実施

よく取材する様々な出前講座を参考に

行政や教育関係、メディアなどの理解と協力が大きかった

香川大学教育学部、県立津田高校、引田小学校、百十四銀行

小学校の養護教諭の研修会などで

吃音の当事者の現状を知ろうと若い人を中心に100人以上から話を聞いた

出前講座では会場に来られない当事者の声を映像取材して上映

*当時吃音当事者が会場で話すことはかなりハードルが高かった

注文に時間がかかるカフェの開催

東京都の吃音当事者奥村安莉紗さんがはじめた吃音当事者の若者を支援する企画

吃音当事者がカフェの店員となり接客を体験（来客に吃音の説明も）

→たまたまニュースでみて奥村さんに問い合わせた

2023年6月10日にさぬき市の徳島文理大学香川キャンパスで開催

徳島文理大学や大川町婦人会など地域の団体やうどん店などの協力で大きな企画に

想定以上の約30社の取材を受ける

吃音の症状の重さ＝生きづらさではない

家族や学校・職場などの理解があれば生きていきやすい

私のように家族の理解もない場合は居場所がなかった

吃音は特に若い世代が学校生活、進学、就職で苦勞する

吃音について相談できる場所は全国でもほとんどない

特にこどもが相談しやすく正確な情報が手に入るシステムが必要では

吃音の研究者や関連の予算はたいへん少ない

吃音以外にも知らない理解されていない障害はたくさんある

安心して相談できる場所やシステムができれば